学校教育目標　主体的に考える生徒　人間性豊かな生徒　他者と協働できる生徒

西中学校だより

一本の樹

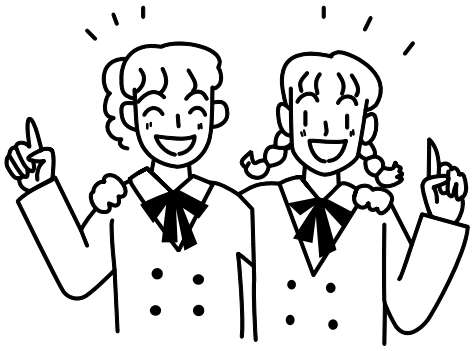
校訓　しなやかに　すこやかに

令和６年８月３０日
第　５　号
上尾市立西中学校長
宮田　純生

２学期の始まりにあたって

校長　宮田　純生

いよいよ２学期が始まりました。夏休みの期間中には、生徒が様々な場面で活躍してくれました。部活動では、陸上部の生徒が走幅跳で関東大会、全国大会への出場。野球部の県大会ベスト８、バドミントン部、卓球、水泳でも県大会へ出場しましました。また、吹奏楽部も地区大会を突破し、県大会に出場しました。



さらに夏休みの各地区の祭りでも学校ボランティアとして頑張っていました。

さて、７月２８日（日）に「社会を明るくする運動」～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～という対話集会が開かれました。これは、法務省の主唱により行われているものです。各地区には「保護司」と呼ばれる方々がいらっしゃいます。罪を犯し、少年刑務所等に服役した人が社会に出るための厚生や支援をボランティアで行っている方々です。上尾市には４０名の保護司の方がいらっしゃるそうです。

罪を犯す子ども（中学生、高校生）の特徴としては、次の要因があるそうです。

１　家庭の不和　　２　不良行為を行う友人　３　不登校、中退、離職
４　薬物、アルコール　５　浪費、ギャンブル
６　相手を責める（責任を相手のせいにする）　７　不安定な精神状態

特に家庭で「親に自分の方を向いてほしい」という思いや大人への不信感から犯罪に手を染めていくそうです。また、貧困や虐待、親からの暴言や暴力を受けている家庭の子どもが多いとの話を聞きました。

原因はあっても罪を犯すことはいいとは言えませんが、「罪を犯した人が更生することを支援し、立ち直ることを目的」として保護司の方は頑張っています。被害者の方にしてみれば「罪を犯した人を許せない」という気持ちがあることもわかります。しかしながら、その犯罪をしてしまうまでの間に、何か防げる手立てはなかったのでしょうか。

この集会の中で、映画等も視聴しグループで討議も行いました。その中で「安心して生活できる環境」をつくることが大切であり、一人でいる子に「寄り添ったり声をかけたりすること」が重要であるとの話がありました。

「あの子と付き合うな」、「あの子と係るな」では、孤独感を感じ、表面だけの仲間を求めるようになり「楽しければいいさ」という投げやりの人生になっていってしまうのではないかなと感じました。

学校でも様々な個性を持った子がいます。「お互いが少しずつ寄り添いあえる」「お互いが相手の事を考えられる」、「困ったときに相談できる」、「友達の小さな変化に気づける」そんな学校にしていきたいなと感じました。

さて、皆さんは夏休み中どんな生活をしましたか、勉強、部活動、など計画的に頑張れましたか。